

地震に際し、亡くなられた皆様の冥福をお祈りするとともに、被災地の皆様心よりお見舞い申し上げます。福島原発の事態が一刻でも早くがおさまるよう願っております

[テキスト使用の際の注意]

以下の内容は、テキストですぐに内容がわかるようにするために書いたものです。もしテキストを引用される場合は音源との確認を念のためお願いすると同時に、内容の改変はしないでください。また、出典の明記をお願いします。

最後に、この内容は、2011年3月18日（金）午後8:20から9:00ごろ（アーカイブ視聴可）時点の内容です。原発事故関連の情報は必ず最新の情報を入手し、冷静に判断をお願いいたします。

■福島原発事故による影響を原発問題専門家にきく

【出演】

ゲスト：永井隆記念国際ヒバクシャ医療センター センター長 山下俊一氏 他

聞き手：下村委津子氏（環境市民理事、ECO パーソナリティ&環境カウンセラー）

隅井孝雄（国際メディアアナリスト ノートルダム女子大学客員教授）

山田章博氏（まちづくり支援研究所 市民空間きょうと代表）

FM797 京都三条ラジオカフェ（運営：特定非営利活動法人 京都コミュニティ放送）

2011年3月18日（金）午後8:20から9:00ごろ放送（アーカイブ視聴可）

http://www.kankyoshimin.org/modules/blog/index.php?content_id=66

（URLは変更があるかもしれません。環境市民のトップページ>東北地方太平洋沖地震情報
>【緊急特番】福島原発事故による影響 原発問題専門家にきく でお探しください）

【永井先生電話インタビュー】

○永井先生

●聞き手：下村

●今朝、福島に入った。先発隊が福島医科大学にいますので、教育や情報の公開、これからどう対応すべきかから始まったところだ。

○これからどう対応すべきか気になるが、今、毎日、放射性物質は放出され続けているのか？

●この1週間をみていると残念ながらそうだ。

○いろいろな報道でいろんな解釈があるが、専門の先生から見て知るべき情報と現状は？

●二つに分けるべき。ひとつは、原子力発電所の中で働いている人の被爆。20キロから非難された人の被爆、遠くに離れた方の被爆の可能性。単位でいくと、マイクロシーベルト。マイクロは心配ないが、ミリというオーダーは注意が必要。原発周辺の方は、ミリシーベルトを浴びる可能性があるので、働く時間を短くしたり退避したりしている。一方、一般の住民の方は、極めて少ない状況なので、現状のままでいいという判断がされている。

○出来るだけ屋内で退避しておけばいいということなのか？

●これもおかしな話で、20キロ離れた場所で安全と思ったのに、また退避なので、普通のシナリオと違う。普通は、国内退避をした後、その場所が少し子危ないから遠くへ非難しましょうと非難する。そして非難した場所は安全な場所だ。今、勧告がでている。

○もう少し遠い距離で設定しておいて、出ても安全な場所であれば、楽だったのでは？

●予測できなかったことだ。第1号機から第4号機もある。その場所を鎮圧、冷却しないと収まらない。1番重要なポイントは、原子力発電所の1号炉から4号炉の問題を解決することだ。

○解決される間に放出されて影響はないのか？テレビの報道でレントゲンと比べたり、飛行機でこれくらい放射能をあびる、自然界との比較で説明されることが多いが、誤解を生じる表現ではないか？

●同じ単位で比較するとそのような言い方もできるが、実は、医療用の被爆とはまったく意味が違う。CTとレントゲンはけっこうな被爆量があるが、とったほうが患者のためになるためなので、限度を設けないのが基準。しかし、今回の自然災害、原子力災害では、一般の公衆があびる値は決まっているので安全な領域を越さないという別のレベルで考えるべき。誤解を招くことがあるだろう。

○これから最悪の事態を予防して、備えておくべきこと考えておくべきことは？

●大気中に放出された放射性物質の種類が大事。ヨウ素131、セシウム137、ストロンチウム90、などの中で健康に危害を与えるのが、ヨウ素131である。甲状腺の被爆線量をおさえることが有効。

○抑えるための方法は？

●国では、甲状腺の被曝線量が24時間そこにいと被曝するとよそうされた場合、安定ヨウ素剤を投与する。これは子ども対象。0歳から3歳、3歳から12歳。水溶液を飲ませる。今の薬は子どもたちには量が多い。それができる場所に避難所があるので、そこで処方になるだろう。

○安定ヨウ素剤は十分な量があるか？

●全国の原発には備蓄されているので、応援があれば心配はない。

医師の処方か？

原則として、総理大臣、県知事の命令で服用の支持が出される。タイミングが極めて重要。

○被曝は種類があるといわれるが、内部被曝、外部被曝をよく聞くが、違うもの？

●外から放射線としてあびるとき、汚染から浴びる場合を外部被曝。内部被曝は、大気中の空気をすったり、汚染されたものを食べたりすることが体の中から被曝することをいう。

マスクをして物質を避けたり、外にでないようにする、甲状腺が入ってくるのは、汚染されたものを食べることなので、20キロ内で流通された食べ物を食べないなど。

心配ならば、ヨウ素の含量が多い、わかめ、昆布のスープを飲んでおけば、普通の人ができる甲状腺のブロックになる。日頃からたべることも効果的な予防策。大事なことは、食物の安全に敏感なので、汚染されたものを市場にださないこと、厚生労働省の安全基準をチェックして、それになつたものを食べるのが大事。

以上。